

# れん

ホームページからも「れん」をダウンロードすることができます。

ホームページ限定特設ページでは小中学校のPTA活動を紹介しています。

富山市PTA連絡協議会

今回紹介する学校は  
 奥田小学校  
 光陽小学校  
 東部小学校  
 興南中学校  
 東部中学校



## 富山市PTA連絡協議会広報紙 第93号



5/9 (土)  
 心をひとつに  
 伝える伝わるPTA活動  
 平成27年度富山市P連定期総会



### 平成26年度 市P連功労者表彰

所属PTA (小学校)	氏名	所属PTA (中学校)	氏名
藤ノ木	作田 秀樹	南部	河上 純子
岩瀬	草島 知並	北部	多喜 正智
光陽	越智 敦子	山室	森 洋一
光陽	宮田 秀人	山室	鎌口 清美
光陽	高柳 えりこ	山室	藤田 尚子
神保	藤井 俊治	奥田	松本 行央
神保	武田 義輝	大泉	野上 伸子
		呉羽	中井 康博
		呉羽	小田嶋 芳子
		水橋	尾嶋 優子
		水橋	新鞍 一博
		水橋	神田 昭恵
		水橋	野上 尚子
		水橋	藤根 康宏
		水橋	新村 仁
		水橋	広浜 智巳
		大沢野	金原 和武
		八尾	水橋 佳子

平成27年5月9日(土)、富山市婦中ふれあい館ホールにて富山市PTA連絡協議会定期総会が開催されました。富山市教育委員会教育長の麻島裕様をはじめ多くの来賓の方々にご臨席賜りました。市P連役員ならびに各単位PTAより総勢191名が一堂に会した会場は、新年度体制を迎える熱意で溢れていました。

水谷前会長の挨拶、麻島教育長より激励の言葉を頂戴した後、これまでPTA活動に尽力された方々へ表彰状が贈呈されました。

平成26年度事業報告ならびに収支報告が満場一致で承認を受け、その後、新役員全員が登壇し紹介され、バトンを引き継いだ庄司新会長が挨拶をしました。

『単位PTAのための富山市P連～心をひとつに伝える伝わるPTA活動～』のスローガンのもと「人間関係が希薄になっているといわれる昨今、活動を通して人と人の繋がりを大切にして、互いを思いやり楽しく活動すること。子供たちの笑顔溢れる未来のために、会員が心をひとつにして、次世代へ伝える真に伝わる活動を推進していきましょう。」と述べた会長の顔には強い意気込みが感じられました。

その後、平成27年度の活動方針・事業計画・予算案の承認を得て閉会を迎えました。

会員全員が「伝える伝わる」この言葉を胸に、いよいよ新年度体制のスタートです。

### 平成26年度 市P連団体表彰

速星小学校	速小おやじの会
-------	---------

# トレーニング (KYT) ケーワイティー

人で出かけて行きます。周りにはケガや事故の原因となる危険がいたるところに潜んでいます。親の目が行き届かず、回避する力を持たなければなりません。そのための訓練として、危険予知トレーニング(KYT)をご紹介します。

## 広報委員会でKYTの講習会を受講

大好評  
でした!

今回の特集記事の作成に先立ち、市P連広報委員会では専門の講師をお招きして、危険予知トレーニング(KYT)の講習会を行いました。

講習会では山や川など、夏の行楽地での危険をテーマに、2つのグループに分かれて行いました。グループ同士で危険をいくつか発見できるか丸付けの数を競い合ったり、危険を種類別に分類してみるなどし、話し合いを進めました。

その中で事故を未然に防ぐには、その場その場にどんな危険があるのか、お互いに「情報を共有」することの必要性や、「声をかけ合う」ことの大切さを学び合いました。参加した委員も話が進むにつれ、とても真剣な表情で受講され、「ぜひ子供にもKYTを伝えたい」との意見が聞かれ、大好評の講習会となりました。



## 参加者の声

事故や災害を未然に防ぐためにKYTが重要だということを知り、忙しさにかまけて子供から目を離してはいけないことを痛感しました。みんなで危険を予測し、子供にきちんと伝えることの必要性を学びました。(S.K.さん)

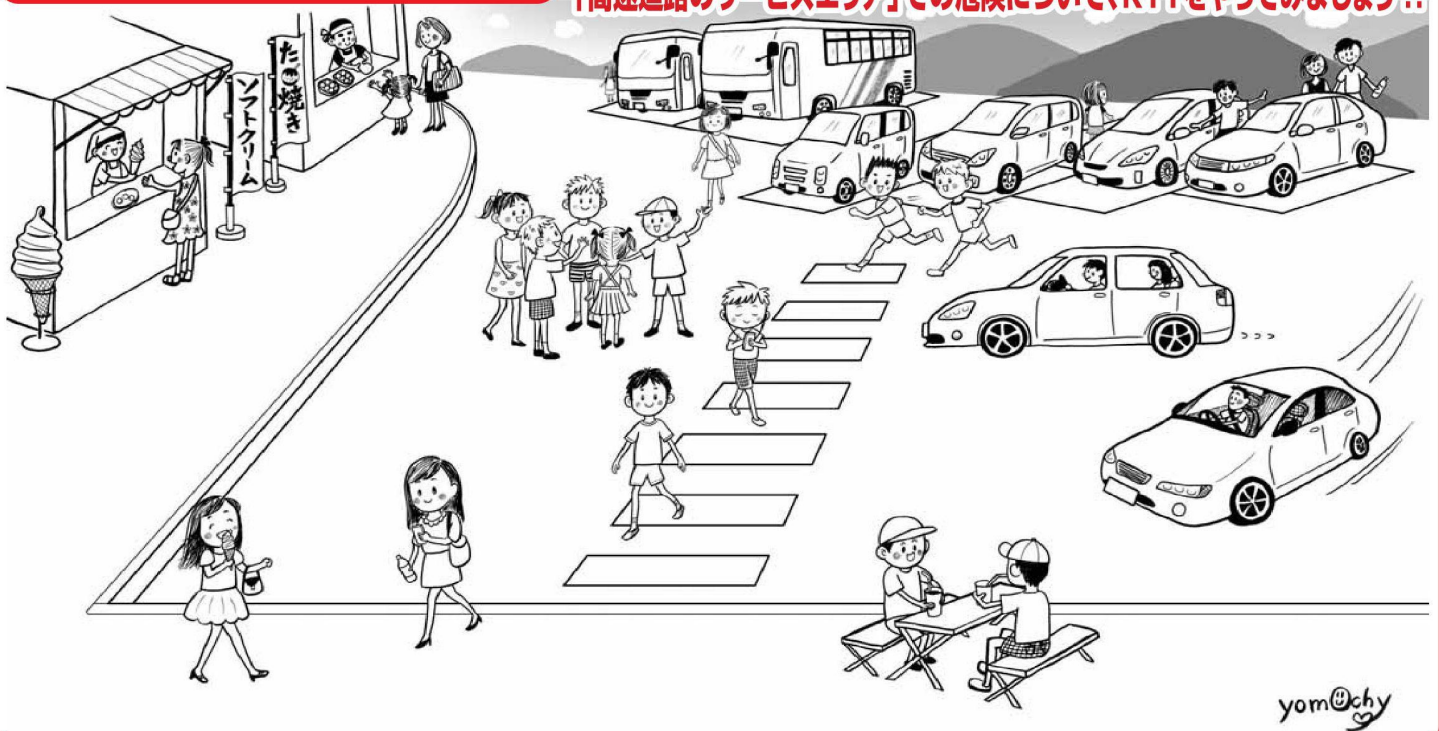
親が子を心配して「あそこへ行ってはだめ」などと言うのが口だけ、言わせてるだけにならず、子供自身で意識するようになると感じました。(E.Y.さん)

講習会の受講に際し、KYTという非常に硬いイメージを持っていたのですが、最初に行う丸付けの作業で、「ここにもあそこにも」と話が弾み、これなら親子でやっても楽しくできると感じました。(M.S.さん)

職場で朝の作業前にKYTをやっているのを知り、ある程度の知識はありました。しかしこういった分野は、正しい答え、間違った答えといったものがなく、お互いに指摘し合うことで安全が生まれるものだと思います。子供向けのKYTは、イラストがまだ一般に出回っていないようなので、この機会にぜひ親子でやってみようと思います。(Y.K.さん)

## チャレンジコーナー

夏の行楽シーズン、車で長距離の移動も多くなると思います。「高速道路のサービスエリア」での危険について、KYTをやってみましょう!!



## KYTからKYへ

皆さん、危険予知トレーニングを体験してどのように感じられたでしょうか?危険予知トレーニングの最終的な目的は、「トレーニングを何度も繰り返すことによって、自分自身が危険を予知する力を身につけること」です。危険が潜む場所で、子供たちが自分で危険に気付けるようになるため。また危険が潜む場所に行く子供たちへ、保護者が適切なアドバイスができるようになるため。危険予知トレーニング(KYT)を繰り返し行うことによって危険予知(KY)ができるようになります。

年間  
特集

親から伝える  
子供に伝わる

Kiken

Yochi

# 危険予知

危険予知トレーニング

## KYTの進め方

まもなく子供たちは夏休みに入り、お友達の家や公園など、自由に1  
ないところで子供たちが自分の身を守るには、自らの力で危険を予知し

### 基本的な流れ

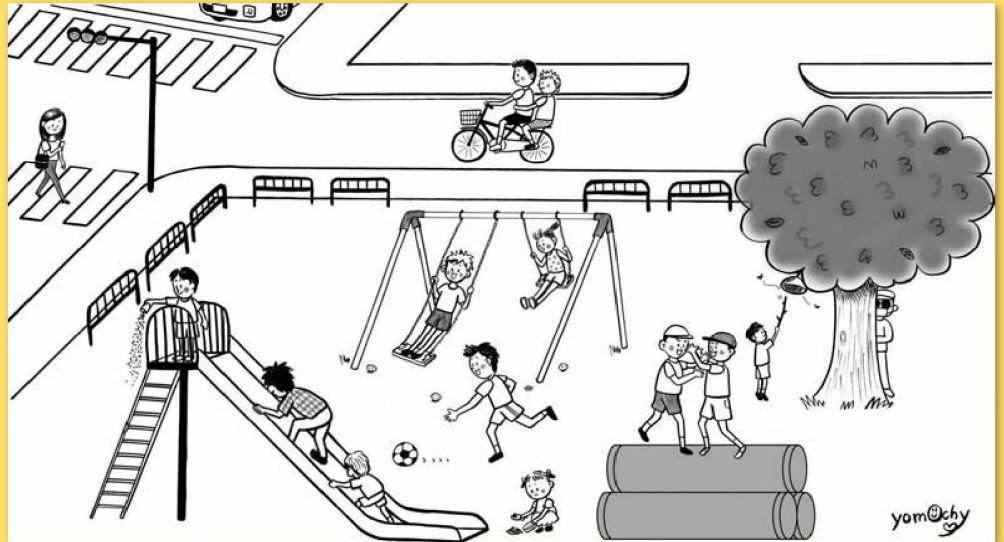
最初に1つのテーマに沿ったイラスト  
を用意します。

右の場面では、公園で子供たちが集  
まって夢中で遊んでいる様子が描かれ  
ています。

中にはちょっとスリルを味わうため  
に、わざと危ないことをしている子供も  
います。

基本的な進め方としては、まず「危険  
を発見」し、それがなぜ危険なのかを  
「話し合い」をします。

そしてお互いに危険について話し合  
いを深めていくなかで、どうしたら「危  
険を回避」できるかを検討します。



### 手順1

危険だと思うところに丸を付けよう。

### 手順2

なぜ危険なのか、みんなで話し合おう。



スベリ台の階段に砂をまいている。  
次に登る人が砂ですべって転ぶ。



八木の巣を突いて遊んでいる。興  
奮した八手に刺されてケガをする。

ココが  
ポイント

少しでも「危ない!!」と思えば、  
ドンドン丸を付けよう。

ココが  
ポイント

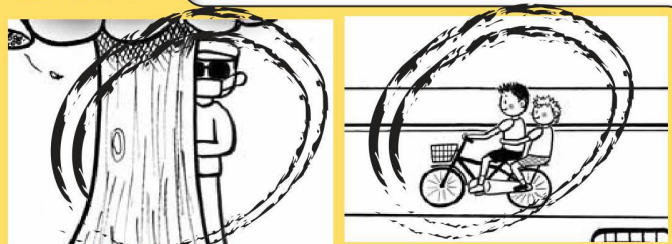
危険な行動をするとどうなるか、具体的に  
考えよう。その時に、「○○になるかもしれ  
ない」という言葉を使わず、「○○になる」  
と断定して話を進めよう。(例:八手に刺される)

### 手順3

命に関わる重大な危険に、2重丸を付けよう。

### 手順4

危険を回避するためのスローガンを作ろう。



不審者による子供の連れ去りは、子供だ 自転車の2人乗りはバランスを崩しやす  
けでの解決が難しく、不幸な結果になる。 <、とっさの時に、安全な対応ができない。>

ココが  
ポイント

危険について情報を共有し、  
異変がある時は声を掛け合おう!!

- ★スローガンは1つに限る必要はありません。特に「手順3」で選んだ「重大な危険」については、対応するスローガンをそれぞれに考えてみましょう。
- ★お互いに声をかけ合うことを意識したスローガンにしましょう。誰かが危険に気づいたとき、とっさにスローガンが頭に思い浮かべば、ささいなことでも、勇気をもった行動がとれるようになります。

<スローガンの例>

**自転車の2人乗りは絶対にしない、させない、見逃さない。**

# 広報実技研修会

平成27年5月31日(日)  
八幡地区センター

**主旨** 富山市内小中学校の広報担当者が参集して、PTA機関紙としての広報の役割や具体的な事例を研修する。研修を通して広報づくりの実技を学び編集技能等の向上を図る。

影をしてみる時間もあり、良いアングルを探す撮影者と声かけされてにややかな表情をカメラに向ける参加者の和やかな雰囲気会場内に広がりました。



後半の部では、フォトグラファターの徳光典子氏から写真撮影時のポイントと写真の選び方について教えて頂きました。様々な角度から撮る、声かけをしながら撮ることで活き活きとした表情あふれる写真になること、またカラー刷りになるか白黒刷りになるかで写真の選び方が違ってくることなど、参加者はメモを取りながら熱心に聴いていました。手持ちのカメラ付き携帯電話で実際に撮影



今年度の研修は2部構成で行われました。まず前半では、広報担当副会長の吉川満博氏より、初心者でもわかりやすい構成・編集の仕方についての講義をして頂きました。広報紙は保護者向けのものであること、PTA活動について紹介・報告をするものであることを念頭におき、お知らせする内容に間違いが情報がないよう入念にチェックすることが大切であると学びました。

# 会長情報交換会

平成27年6月21日(日)  
ホテルグランテラス富山

**主旨** 富山市内の小中学校それぞれの単位PTAの情報や意見交換を行うことで、PTA会長の抱える課題や悩みを共有すると同時に、会長同士が密接に連携し今後のPTA活動を発展させることを目的とする。



今年度の情報交換会には各小中学校のPTA会長約80名が参加され、30名の市P連役員が運営にあたりました。  
「みんなで話し合っ分ち合おう」とPTAをテーマに第1部全体会(パネルディスカッション)、第2部分科会(会長情報交換会)、第3部懇親会の3部構成で進行されました。  
第1部のパネルディスカッションでは市P連の水谷顧問がコーディネーターとなり、パネリストの寺島会長(芝園小)、老川会長(五福小)、式庄会長(北部中)、柳田会長(八尾中)らと組織の運営方法や役員・教職員との接し方、役員の選出方法などコーディネーターとパネリストの間で様々な意見が熱く取り交わされました。  
第2部分科会では学校の児童、生徒数の規模で6部分科会に分かれ進行されました。  
各部分科会では、各PTA会長が悩みを共有する役員の選出方法や資源回収などPTA活動の運営方法、会費の値上げ等、各学校の情報を意見交換し合い、予定の3時間があつという間に過ぎ去りました。  
第3部の懇親会には、PTA会長と役員総勢63名が参加されました。皆さん楽しそうに歓談し、最後に全員で記念撮影して全日程を終えました。

## ネリ子の話

七ちゃん

ある学校の給食室で調理補助の仕事をしていた時のことです。給食を作り上げるために沢山の行程がありますが、献立内容によって作業に少し余裕ができる日もあります。そんな日には調理員さんがスープに入れる人参をハート型に切ったり、煮物に入れるこんにやくを星形に切ったりしていました。350食のうちのたった5〜6個でしたが...

さて給食の時間になりワゴンが教室に運ばれ配膳が終わる頃、どこかの教室から「わあっ!!」と歓声が上がるのが聞こえてきます。もしかしたら給食が苦手な学校に行きたくないと思っっている子供でも、半月に1度のこんなささやかなサプライズがあつたら、ちよとだけ給食の時間が楽しみになるかもしれません。余裕から生まれる大人の遊び心を受け取って、子供たちが心豊かに育つていくといいなあと思っ体験でした。

広報副委員長 高柳えりこ

## ◆編集後記

今回の特集記事は夏休み中の子供たちの安全を考え、危険予知トレーニング(KYT)を取り上げました。記事の作成に際し私たち広報委員も、専門の講師をお招きし講習会を行い、そのときの学びを中心にKYTの特集記事を作りしました。

KYTという少し聞き慣れない言葉かもしれませんが、イラストを使って簡単にできるトレーニングですので、この機会にぜひチャレンジしてみてください。

広報委員長 島浦 幹幸